

RV110WのVLAN間通信におけるデバイスアクセスのトラブルシューティング

目的

このドキュメントでは、VLAN間通信のシナリオをトラブルシューティングするために実行できる手順について説明します。トポロジを次のように考えます。ストレージデバイスなどのデバイスは、RV110Wで作成された新しいVLANに接続されます。これで、RV110Wに存在する他のVLANからこのデバイスへのインターVLANルーティングが発生しなくなります。この場合、この記事は役に立ちます。

該当するデバイス

- RV110W

QuickVPN接続のトラブルシューティング

pingを試す

まず、デバイスからRV110Wへのpingが成功するかどうかを確認します。これにより、デバイスがIPアドレスを受信したことを確認できます。

VLANの作成を確認する

VLANが正しく作成されているかどうかをRV110Wで確認します。

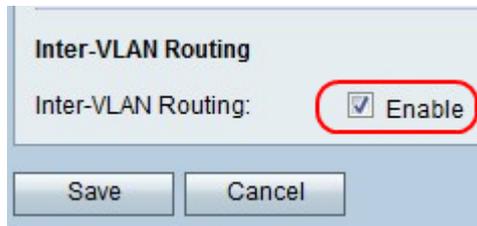
ステップ1：これは、Web設定ユーティリティから[Networking] > [LAN] > [VLAN Membership]を選択すると実現できます。これにより、ポートのVLAN設定が含まれている[VLANメンバーシップ]ページが開きます。

Select	VLAN ID	Description	Port 1	Port 2	Port 3	Port 4
<input type="checkbox"/>	1	Default	Untagged	Untagged	Untagged	Untagged

ステップ2：ポートを取得したら、デバイスが正しいポートに配線されているかどうかを確認します。

VLAN間ルーティングが有効になっているかどうかを確認します

ステップ1:VLAN間ルーティングが有効になっているかどうかを確認するには、管理ユーティリティからNetworking > Routingを選択します。「ルーティング」ページが開きます。



Inter-VLAN Routing

Inter-VLAN Routing: Enable

Save Cancel

ステップ2:[Inter-VLAN]エリアまでスクロールし、[Inter-VLAN routing]の[Enable]チェックボックスがオンになっているかどうかを確認します。[有効(Enable)] チェックボックスをオフにすると、VLAN間ルーティングが有効になります

ステップ3:[Save]ボタンをクリックして設定を保存します。